

こども

2015.4
Vol.32

特集
「公徳会のチーム医療について」
シリーズ・健康
体幹トレーニング(1)

理念
・愛のある医療
・良識に基づいた医療
・公正、公平な医療

基本方針

1. 良質な医療の提供につとめます。
2. 患者さま、利用者さま中心の医療を行います。
3. 地域に立脚した医療を行います。
4. 安全で安心と満足の得られる医療を提供します。
5. 保健、医療、福祉の幅広い視点に立って健康を考えます。

「公徳会のチーム医療について」

～地域との連携と支援体制づくりについて～

はじめに

わが国の精神医療関連の支援体制は、平成16年に打ち出された「精神保健医療福祉の改革ビジョン」によって、救急急性期医療の重視、長期在院者の退院促進、地域ケア体制整備等が掲げられ、入院医療



中心型から地域生活型へと変化してきました。平成25年4月には、「精神保健及び精神障がい者福祉に関する法律」の一部を改



正する法律」が施行され、外来・在宅医療即ち地域生活への移行が促進されることになりました。現在、全国で精神科医療を受けている人々は、約300万人余と言われていますが、その90%以上の人々が外来に通院し地域の中で生活しています。

昭和61年4月に、救急・急性期から地域へ、そして、地域の中で医療と福祉の融合を、という理想を求めて公徳会佐藤病院がスタート致しました。以来、保健・医療・福祉が三位一体となつた総合的なサービスの提供に取り組んで来ました。地域との融和、地域の方々との関係性を大切にし、平成22年1月には、社会医療法人の認可を受け、より公共性と質の高いサー

ビスを心がけています。

そこで、社会医療法人公徳会の地域での取り組みと支援体制について、分かりやすく説明したいと思います。

公徳会グループの組織について

組織については、別図をご覧ください。広報誌「こうとく」28号

では特集：地域の方々をサポートする体制づくりとして福祉部門を、29号では介護部門を、30号では訪問看護ステーションについてご紹介致しました。

公徳会佐藤病院は、山形県における精神科救急医療（スーパー救急）の先駆け的な存在として、精神科救急の要請に幅広く応えています。更に、山形市の若宮病院も公徳会グループに加わり、スーパー救急医療を開設し、共にそれぞれの地域でスピークリーな実効性の高い短期入院治療を目指しています。昨年度



は特に、長期入院者の退院を促進し、地域での生活の場所づくりに力を注いで参りました。そして、働く力の助長と働く場を提供できるようにサポートをしています。

地域の方々との関わりについて

公徳会では毎年夏祭りを開催し、患者様とスタッフがチームを組んで屋台を出店し、特設ステージ上では地域の皆様からの太鼓や踊りを披露していただき、さらに200発以上の花火が夜空に広がり、ご好評を得ています。

環境整備委員会は、資源リサイクル・ゴミ問題の取り組みや、ボランティア活動を行い、さらに地域周辺を花で彩る「花いっぱい運動」を行っています。

地域の行事などには、患者様と共に積極的に参加しています。保育を受けられない児童のために、南陽市では初めての民設・民営方



佐藤病院
院長
沼田由紀夫

式の学童保育を行っています。

また、公徳会の体育館は、入院やデイケアに参加している方がリハビリのための運動やウォーキングを行う施設として利用されますが、障がい者のスポーツ大会や老人施設の交流ゲーム大会等にも開放しています。

公徳会の取り組みと役割



公徳会では平成23年10月から平成25年3月末まで、県の委託を受けて精神障がい者アウトリーチ推進事業に取り組んで来ました。未治療や治療を中断している方々に『精神科医・看護師・精神保健福祉士・作業療法士・臨床心理士等』の多職種から構成されるアウトリーチチームが一定期間訪問を行い、地域での安定した生活を継続できるように、合計22名のサポートを行いました。これはモデル事業のため、平成25年度で終了しましたが、公徳会では今後も『多職種チーム』での支援の経験を生かせるよう体制を検討しています。

現在入院中の患者様や、外来・デイケア等を利用中の患者様に対して、退院を促進し社会復帰をお手伝いするため、多職種チームで支援する事が当たり前の時代になつてきました。しかし、十分に機能し満足のいくような結果を得るにはまだまだ時間がかかります。今後も多職種のチームを組んぐ感じています。

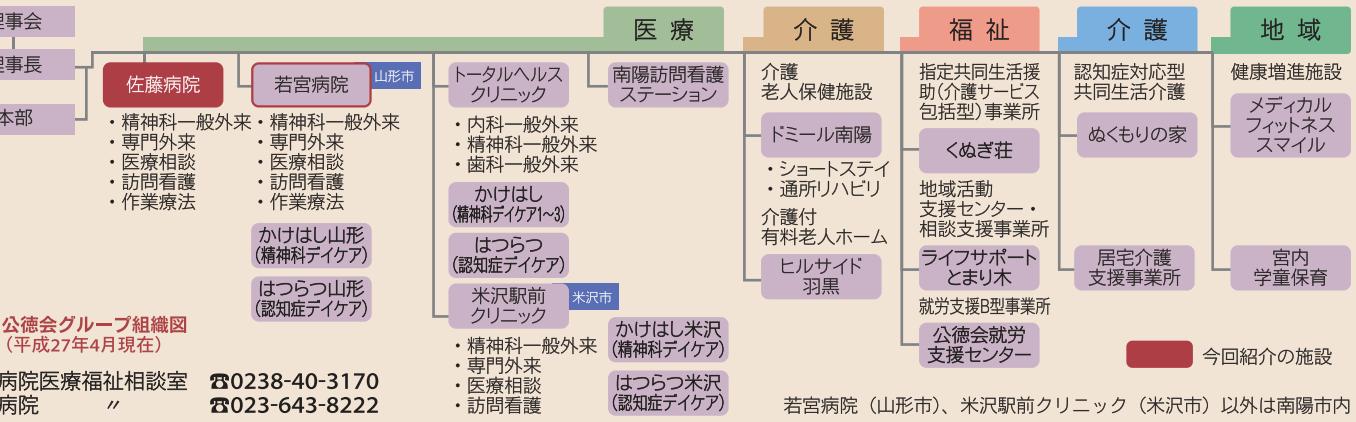
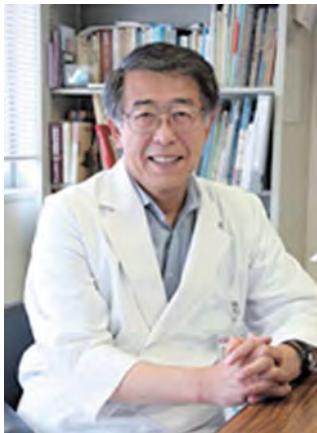
我が国では65歳以上の人口が3000万人を超え、高齢化率は23

他施設・他機関との連携



最後に

これまで、多職種チームを組んでの支援体制について繰り返し述べてきましたが、チームの中で医師が主導権を握るのではなく、各分野のスペシャリスト達が対等な立場で連携し自分の職種のスキルを発揮して利用者様のケアとサポートを継続して行くことが求められています。公徳会グループは、こうした姿勢を貫いて地域の中でも質の高いサービスを提供して行きたいと思います。



「私達の役割と活動について」

日本精神科看護協会が認定する精神科認定看護師。今回、公徳会で活躍中の認定看護師の皆さんに定期例会議（毎月1回）の席でお話を伺いました。

■参加者：5名、司会1名

- ①島貫美智子（佐藤病院第6病棟 老年精神障がい看護領域）
- ②土屋智彦（佐藤病院第7病棟、うつ病看護領域）
- ③奥山亮（若宮病院第1病棟、行動制限最小化看護領域）
- ④鈴木志津子（若宮病院第1病棟 精神科薬物療法看護）
- ⑤鈴木砂由里（若宮病院第2病棟 児童・思春期精神看護）

（司会）山川光章（若宮病院看護部長）

司会▼早速ですが、精神科の認定看護師とはどういう制度でしょうか？

鈴木志▼日本精神科看護協会が1995年に開始した制度です。協会が定める所定の単位をすべて取得した上で認定審査に合格し、精神科領域において優れた看

護能力、知識を有すると認められた者を精神科認定看護師といいます。

司会▼全国には何人くらいいますか？

島貫▼全国で559人、山形県に18人、公徳会には私達5名が在籍しています。

全国で精神科勤務の看護師数は5年前で約3万4千人でしたから、まだまだ少ないと言えますね。

各領域の役割と活動について

司会▼そうですね。では、貴重な存在の皆さんに期待されている役割等はどんなところでしょうか。

土屋▼基本的な役割として、看護の実践・相談・指導・知識の発展の4つの柱があります。

中でも「うつ病看護」は、患者様の職場や家庭への復帰に必要な支援を効果的に実践すること、自殺対策、職員のメンタルヘルスケア

が謳われています。病棟では有効的な治療方法の一つ・認知行動療法を導入し、物事をとらえる考え方の幅を広げることでうつ病や自殺対策の一助としています。

司会▼うつ病への対策というと外部への社会的な働きかけ等もありますね。

土屋▼はい、病院内だけでなく、他の施設や機関とも連携し自殺予防対策やうつ病の予防、関わりについての講義もさせてもらっています。

司会▼うつ同様、社会的問題の一つ「老年期の看護」についてはどうですか

島貫▼佐藤病院の精神科救急病棟では、多くの認知症患者を受け入れており、増加傾向にあることから、高齢者の入院による身体への影響を考えると早期治療・退院に対応可能な看護スキルの向上が必要です。さら

支えることが多くなり、その関わり方を広めるための講演や地域での病院の役割を考えいくことも必要だと感じています。

司会▼なるほど、問題解決には地域の協力が不可欠ということですね。

では次に、各症状を緩和する「薬物療法看護」の支援はどうでしょうか。

鈴木志▼役割としては、患者様が安心して治療を継続できるような療養環境をつくることです。基本的福祉政策が入院医療中心から地域生活中心への移行にシフトし、救急、リハビリ、重症度などの機能分化を進め、早期退院を実現するためには治療薬の適切な使用推進が使用する場合に2種類以下と3種類以上で診療点数に差が出る事や、不安、睡眠障害、うつ等に対する治療薬処方の適正化が打出さ



平成27年2月5日(木)
於／佐藤病院3F
ミーティング室



れて基準を超えた種類の薬剤处方を「向精神薬多剤投与」と明確化されました。

司会▼少ない薬で効果を得

ようになると、確実な服薬が必要になりますね。

鈴木志▼長期的に多剤併用する場合、一般的に身体への影響（睡眠薬への依存、腸の機能不全）が心配され

ます。入院中は確実な服薬で状態の安定化が図れます

が、退院後に服薬中断を繰り返して症状の再発を招く

こともあります。入院中は確実な服薬治療が継続できるように入院中から支援することも重要な役割です。

司会▼全ての病気に関わる大事なことですね。

次に、入院中に問題となる「行動制限最小化看護」について教えてください。

奥山▼主に病気による症状のために行動を制限されている患者様を対象に他職種と連携して倫理面や安全面に配慮し制限を最小限に留めることです。

司会▼行動制限というと、部屋に鍵をかける隔離とかですか

奥山▼はい。全国的には患者様を保護し隔離する鍵のかけられる部屋が増えつつあります。

拘束される患者様が増えている病院があります。公徳会では、行動制限を最小化するため勉強会を開催し周知する活動を続ける一方、

病棟を見回りして現状を把握し、他職種も含めた改善への協議・対応が行われています。

司会▼精神科における行動制限は、他の診療科に比べ法律で厳しく制限されていますね。

奥山▼はい。患者様のために行動制限を最小にするには、知識や技術が必要です。法人内だけでなく、多くの精神科病院で最小化の取り組みが出来るように支援することも役割の一つです。

司会▼そうですね、患者様や社会のためにはそうあるべきですね。

次に、「児童・思春期看護」の活動で感じていることはありますか。

鈴木砂▼出前講習会や学術集会での企画セミナー、看護研究など地道な活動を通して地域社会に広げたいと考えています。これまでの児童・思春期に重点を置いて地域社会に広げたいと活動の中で、佐藤病院勤務時に貴重な経験をした事

が思い出されます。私が、高校受験を翌日に控えた入院中の子供さんの制服の洗濯やアイロン掛けをし、当日の朝私自身も気がもめて栄養科まで走って朝食を取りに行つた事です。晴れて合格し父親に付き添われ一緒にお礼を言いに来てくれたのですが、本人は泣いてばかりで一言も話せずにいた事が今も忘れられません。

島貫▼はい。患者ならではの貴重な経験ですね。最後に、皆さんから今後の活動についてお願ひします。

島貫▼一口にまとめるのは難しいですが、大きく病院内の活動と地域での活動とに分けられると思います。

入院中の患者様の相談や対応等は勿論、地域からの相談、講演等も大きな活動なので積極的に取り組みたいですね。

奥山▼病棟で行動制限を最小化、早期解除を目指すことによって短期間で元の生活に戻られると考えていましたので、早期退院への援助を心がけたいです。

鈴木砂▼現場での実践を大事にして、患者様の生活の

小さな事に目を向け、問題解決に取り組んでいきたいと思います。

鈴木志▼公徳会の認定看護師のメンバーで研修会を企画しています。看護師全体のレベルが上がるお手伝いも私たちの役割だと強く感じています。

土屋▼今年度から精神科看護協会の認定制度が変わり、10領域が統合されます。それに伴って他の領域の勉強も必要になり、認定看護師一人一人にさらに幅広い知識が求められます。病院の中は勿論、自分たちが持つ知識を地域にも還元できればと思っています。

司会▼病院の中に限らず地域の皆さんへの還元が出来ればさらに幅が広がりますので、是非よろしくお願ひします。今後の皆さんのが活躍を期待しています。

今後の活動等について



公徳会佐藤病院 検査科研究室

佐藤病院・若宮病院では、精神神経学会認定の精神科専門医制度の研修施設として、専門資格の取得を目指す後期研修医を受け入れています。スーパー救急（精神科救急病棟）を擁し、多くの症例を経験できることが特長です。また、研究室を持ち、病院と連携し患者様のお役に立つ医療に取組んでいるほか、博士号を取得した医師が活用できる体制を整えるなど、「臨床、教育、研究」の三本柱の充実に努めています。

研究室は、東北大学青葉山キャンパス内（仙台市）にあり、常勤者2名が責任者の佐藤病院栗田副院長の指導の下、うつ病、認知症などに関する血液中のバイオマーカーの測定、研究を行っています。この測定は、大学と同等レベルの最先端の技術です。大学では、測定結果を本人に出すことが少ないのですが、公徳会では、治療の一助とするため、本人にお見せしています。

研究室

研究室では、主に血液中の「神経と神経の間の信号（ドーパミンやノルアドレナリン）」や「神経の活動を助け物質（脳由来神経栄養因子・BDNF）」を測定しています。また、国内国外の最新の医療情報を集めています。

「ほほえみ・うつ専門外来」 の「」案内

■測ると何が分かるの？

同じ病気であっても人それぞれ症状は、違っています。そのため、効きやすい薬も違ってきます。現在、肝臓や腎臓の状態を血液で調べることができます。私たちは脳の状態を血液で調べています。どんな薬が効きやすいのかを選ぶ参考にしています。

■なぜ測るの？

病気と対峙するとき、病気がどんな

状態かを客観的に知ることは病気と向き合うために大切です。当法人の検査科では、MRIやCTなどの画像検査や脳波などの機能的検査、心理テストなど保健適応のある検査を行っています。研究室では、まだ保健適応にならない脳の状態を反映する血液物質を測定しています。「これら検査で、自分の状態を客観的数値で知ることで、治療（薬物治療、カウンセリングによる治療、休養など）の必要性を理解し、治療に取り組めるようになります。

目の前の患者さんに役立つことを第一義としていますが、さらにその先に、これから病気にかかるしまう人、今苦しんでいる人の助けとなるため、その結果、結論をまとめて、学会や論文という形で発信しています。社会医療法人公徳会は、このような形においても社会貢献の一翼を担っています。

■「」で測れるの？
公徳会佐藤病院の専門外来（ほほえみ外来・火曜日午後）で測ることができます。現在、ほほえみ外来は、予約制となっております。事前に連携室・外来（0238-40-3170／shsoudan@koutoku.or.jp）へご連絡ください。測定に1週間程度要しますが、「」本人のデータは、もちろん見ることができます。

■お金はかかるの？
当法人の社会貢献の一環として、佐藤病院のほほえみ外来では、無料で測定できます。保健適応されない物質を測定しています。なお、測定費用は患者様にご負担いただいておりませんが、採血に同意していただく必要があります。したがって、同意書（サイン）が必要となります。（※未成年の方は、保護者の同意が必要です。）

■日本医科大学（連携講師）
栗田副院長（同）が、日本医科大学の連携講師となっています。研究生が中心となり、ニコチン依存症や認知症について、調査しています。

■日本医科大学（連携講師）
栗田副院長（同）が、日本医科大学の連携講師となっています。研究生が

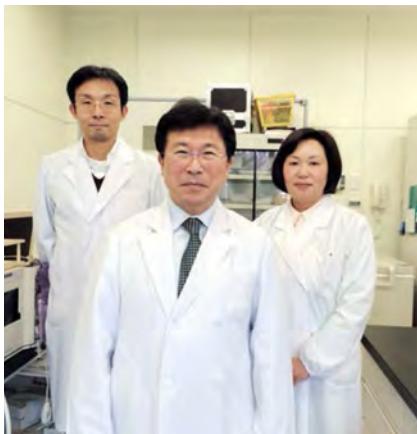
結果をまとめ際に、どんな薬を飲んでいたか？どれくらい飲んでいたのか？どんな薬を併用していたか？というのも大切な情報になります。公

徳会の施設と連携し、個人情報を守りながら、過去のお薬の履歴を調べてい

ます。公徳会には、図書室が併設されています。これら文献を活用し、最新の医薬品・医療情報を集めています。

■法人外 他施設との連携
栗田副院長（当研究室責任者）が、文部科学省の研究費を獲得し、動物実験等の基礎研究を行っています。また、最先端の情報を東北大学で調べています。

■東北大学薬学部（分野研究員）
栗田副院長（当研究室責任者）が、文部科学省の研究費を獲得し、動物実



研究室の連携

■法人内 各施設等との連携
医事課、薬剤科、診療情報管理室、

一丁室

ブログの「」案内

研究室では、法人ホームページ内で「公徳会研究室の日常」というブログを開設しています。
ぜひご覧ください。

◆研究室から見える青葉山の桜



認知症予防(1)

認知症は、現時点で「これをすれば必ずならない」という方法はありませんが、「どうすればなりにくいか」ということは分かってきました。その対策として、認知症になりにくい生活習慣を行うこと、年齢とともに低下する能力を鍛えていくといったことが挙げられます。今回はその中から、生活で身近に出来る運動をご紹介いたしますので、ぜひお試し頂ければと思います。

今回のテーマ 運動を習慣化して認知症予防!

運動は体に良いだけではなく、脳にも良い効果をもたらすことが分かっています。有酸素運動などの適度な運動は、脳の血流を増やし脳神経細胞を活性化させるからです。



Q どのような運動がいいの?

- ①一気にする運動よりも継続できる運動(ゆっくりと無理なく長くやり続けること)
- ②1日30分程度の運動(時間を決めて、やりすぎない・負荷をかけすぎない)



Q 継続するためのポイントは?

日常生活に運動をうまく組み込み、習慣化させる

おすすめ運動 ~こんな意識でやってみるとどうでしょうか…~

お仕事をされている方におすすめ

- ①駐車場に車を停める際に、入口までいつもよりも少し遠くに停めて歩く
- ②エレベーターより階段を使う
- ③椅子に座りながら…
膝を伸ばして片足上げ▶15秒程度キープを左右2セット
つま先・かかと上げ▶20~30回を目安に繰り返す



お家で過ごすことが多い方におすすめ ~ながら体操~

- ①TVを観ながら…
つま先・かかと上げ 20~30回を目安に繰り返す
- ②洗濯ものを干しながら…
スクワット▶かごを台などには置かずに床に置き、1枚ずつしゃがんでとるようにしてみる。
(膝の痛みがある方は無理をしないでください)
- 腰ひねり▶余裕のある方は、かごの位置を調整し腰をねじる動作を入れてみましょう。
- パンザイ▶両腕をピンと伸ばしながら干してみましょう。



最も大切なのは「継続すること」です。あまり負荷のかかりすぎるものになってくると、負担となりやる気もダウンしがちになるでしょう。

日常生活に組み込むことで少しでも負担を軽減しましょう。

前号で、ドミニル南陽が認知症の軽減化・改善化のため取組んでいる「脳トレーニング」(脳活性化のすすめ)をご紹介しました。今号より、テーマ別に4回シリーズで「認知症予防」をご紹介します。1回目は「運動」です。ぜひ皆様の生活の中に取り入れてご活用ください。

看護師 相原みち子



佐藤病院は、昭和54年に神経内科医院として開業し、昭和57年に病院として開業しました。今年は創立30年目を迎え、現在も様々な歴史を刻んでいます。時代のニーズに伴い増改築が行われてきており、その集大成とも云える新外来・入院棟が昨年3月末に完成・リニューアルオーブンし早いもので一年が経ちました。私が入職した頃はまだ畠の病室もあり、布団の上げ下ろしを患者様と一緒に行つたいた頃を思い出し懐かしくなったものです。

私が勤務する2病棟は改築とともに移転し療養病棟として新体制でのスタートを切りました。旧病棟時は狭くベッドの移動に大変苦慮しましたが、新棟は廊下や病室が広くなりとても働きやすくなりました。業務としては、統合失調症や躁うつ病などの精神障害の患者様のほか、高齢化に伴う認知症の患者様や糖尿病・心臓病・肺炎などの身体合併症の患者様、終末期の患者様と、多岐にわたる患者

様への看護、介護を提供しています。個室も14床と以前より多くなり、特に終末期にはご家族の方が周囲に気兼ねなく過ごしていただけるよう部屋の調整も出来るようになり感謝の言葉を頂いております。

一方、精神保健福祉士等と協力しながら社会復帰を目指したり、施設入所や在宅への退院に向けた支援を行つたりすることも大きな業務の一つです。

30有余年という月日の中、長期に亘り入院生活を送られている患者様も少なくありません。病院は本来は今まで生活していた所に戻ることができるのが一番だと思います。その支援のために、各市町村の福祉課や社会資源の利用などの情報をご家族様に提供して、退院に結び付けられるよう今後も取り組んで行きたいと思います。そしてこれからも患者様ご家族様のお役に立てるよう努めて行きたいと思います。

現場で働く人

シリー^ズ

佐藤病院第2病棟

師長 富澤登志子

上司から

2病棟は54床の精神科療養病棟として長期入院患者様の退院支援や身体的治療が必要になつた患者様の看護を担っています。新入院棟の完成で、広く明るい療養環境となり皆様からつたりできる、明るくて気持ちがいいとの声を頂いています。職員も新しい環境となりハード面に劣らぬよう看護技術面はもとより接遇対応面に気を配つてきました。当病棟は経験が豊富な中堅看護師が多く配属されています。今後も全員で、相原さんに負けないよう、常に初心を忘れず、患者様、ご家族様の立場に立つた対応を心がけて行きたいと思います。

機械浴／特浴槽の導入

車椅子や寝たきりの患者様に対しリクライニングチェアごと入浴できる浴槽を設置しています。以前は浴槽に入ることが出来なかつた方も身体的負担が少なくリラックスして頂けるようになりました。



体幹を鍛えて身体は変わる!

- ①姿勢が変わる
体幹を鍛えることで安定ある正しい姿勢になります。
- ②疲れにくい体に
代謝が良くなるので疲れにくい体になります。
- ③体の芯から痩せる
インナーマッスルが鍛えられ体の芯から痩せられます。
- ④腰痛を解消
腹筋や背筋が鍛えられ腰痛が緩和されます。



基本的な体幹トレーニング

今回は、運動が苦手な方でも簡単にできる腰痛予防、緩和に効果的な体幹トレーニングを紹介します。

1. ドローイン お腹の深層部(腹横筋)を鍛えます



仰向けになり、両膝を立てます。
鼻から息を吸いお腹を膨らませていきます。
※約4秒かけてゆっくり息を吸います。



口から息を吐きながら、お腹をへこませていきます。
※約6秒かけてゆっくり息を吐きます。



体幹は、あらゆる動きの中心軸となる胴体部分。英語では「コア(CORE)」と呼ばれています。お腹周りをイメージするかもしれません、人間の身体の頭と左右の手足を除いた部分を指すのが一般的です。

2. キヤットドック 背中周りにある筋肉の柔軟性を高めます



両手を肩幅に開き、両膝は腰幅に開きます。
おへそを覗き込むように頭を下げ、両手で床を押しながら背中を真上に向かいゆっくり丸めています。



両腕の間から頭を上げ丸めた腹をゆっくり反らします。このとき、頭と背中以外動かさないように注意しましょう。



厚生労働大臣認定 健康増進施設 メディカルフィットネス スマイル

体幹トレーニング(1)

健康な身体づくりの基本部分となる「体幹」。27年度は今回より4回シリーズで「体幹トレーニング」をご紹介します。1回目は「体幹についての説明」と「腰痛予防に効果的な運動(体幹トレ)」。時は春、無理のないよう注意しながら、さあ始めましょう!

参加は今年で3年連続。前日までの雨や雪の影響で固めた雪が壊れやすくなつていました。クリニック通所者様7名と地域活動委員7名が一致協力して昨年同様2基の雪灯籠を作成、3年目ベテラン通所者様の指導で例年になく立派に出来上りました。

来年度も参加する予定であり、米沢の冬を盛り上げていきたいと思っています。

7回目の入所式

7年前、南陽市の要請を受けて民設・民営方式でオープンした宮内学童。4月1日に入所式が開催され新1年生23名・2年生2名の25名が元気に仲間入りをしました。

先生方の挨拶、御来賓・宮内小学校長先生のお祝いの言葉の後に、恒例の全児童によるDVD（学童生活の記録・鑑賞、保護者会総会）が行われました。3月のお別れに次いで、「もう一つの学び舎」の新たな春が70名でスタートしました。



やさしくなつていましたが、クリニック通所者様7名と地域活動委員7名が一致協力して昨年同様2基の雪灯籠を作成、3年目ベテラン通所者様の指導で例年になく立派に出来上りました。

来年度も参加する予定であり、米沢の冬を盛り上げていきたいと思っています。

宮内学童

7年前、

外来受付時間・担当医師予定 (4/1~)

【佐藤病院】佐藤病院の外来診療は4月より、木曜日午後診療、土曜日休診と変更になりました。

	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:30~11:30	佐藤・沼田・池田	御供・計見・阿部(宏)	佐藤・武吉・岩本	沼田・阿部(宏)・文	栗田・高橋		
午後 3:00~4:30	栗田	御供	大和	中尾	中尾・安田	休診	
専予 門約 外来制	午前 8:30~11:30				齋藤(卓)(第1・3・5週)・須山(第2・4週) (児童思春期)		
	午後 2:00~4:00	沼田 (アルコール)	栗田 (うつ病)		御供 (もの忘れ) ※第2週目は休診	齋藤(卓)(第1・3・5週) 須山(第2・4週) (児童思春期)	休診

【若宮病院】

	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:30~11:30	鈴木(庸)・山本・阿部(詔)	長谷川・尾形・澤村	長谷川・鈴木(庸)	山本・石田	日向・阿部(詔)	竹内・澤村・岡村	
午後 1:30~4:30	鈴木(庸)・日向	石田・ 阿部(淳)(第1・3・5週)	尾形	休診	鈴木(庸)・竹内・岡村	休診	
専予 門約 外来制	午前 8:30~11:30		成重 (児童思春期)		長谷川 (もの忘れ)		
	午後 1:30~4:30	竹内 (うつ病)	成重 (児童思春期)	小林 (もの忘れ) (第2・4週)	山本 (アルコール)		須山(第2・4週) (児童思春期)

【米沢駅前クリニック】

	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~11:30	御供	中尾	栗田	武吉	沼田	大和・当番医	
午後 3:00~4:30	文	大和	高橋	休診	阿部(宏)	休診	
専門外来 予約制 午前 9:00~11:30						須山(第2・4週) (児童思春期)	

【トータルヘルスクリニック】

	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:30~11:30	川合	川合	川合	柏倉	川合	調整中	
内科 予約制 午後 2:30~4:00	休診	川合	休診	休診	休診	休診	
歯科 予約制 午前 9:00~11:30 午後 1:30~4:30	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	休診	

※各施設担当医師については変更する場合もありますのでご了承ください。

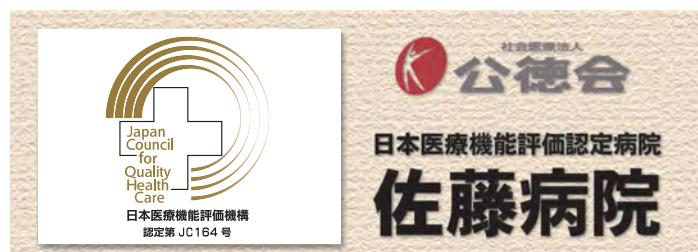
※診療及び、各種お手続等に関するご相談・お問い合わせは佐藤病院 **医療福祉相談室(TEL.0238-40-3170)**

もしくは若宮病院 **医療福祉相談室(TEL.023-643-8222)**にて受けいたします。

診療情報 (平成26年度)

【佐藤病院】		1月	2月	3月	平均
外来件数(一般外来)	1日平均	62.2	63.4	68.1	64.6
(うち、児童思春期外来件数)	月件数	114	106	127	115.7
(うち、うつ外来件数)	月件数	81	75	93	83.0
(うち、アルコール外来件数)	月件数	15	14	6	11.7
(うち、もの忘れ外来件数)	月件数	14	25	22	20.3
(うち、時間外外来受診件数)	月件数	23	15	21	19.7
入院者数【総ベッド数258床】	1日平均	236.3	232.0	228.8	232.4
入院件数	月件数	46	35	42	41.0
(うち、措置・応急入院件数)	月件数	1	1	2	1.3
退院件数	月件数	46	44	46	45.3
平均在院日数		134.7	120.3	116.5	123.8
(うち、救急病棟平均在院日数)		75.4	72.0	70.9	72.8

【若宮病院】		1月	2月	3月	平均
外来件数(一般外来)	1日平均	62.3	61.8	64.3	62.8
(うち、児童思春期外来件数)	月件数	148	158	188	164.7
(うち、うつ外来件数)	月件数	34	41	53	42.7
(うち、アルコール外来件数)	月件数	8	10	7	8.3
(うち、もの忘れ外来件数)	月件数	9	9	15	11.0
(うち、時間外外来受診件数)	月件数	12	16	21	16.3
入院者数【総ベッド数165床】	1日平均	154.8	155.1	152.6	154.2
入院件数	月件数	41	27	35	34.3
(うち、措置・応急入院件数)	月件数	1	2	5	2.7
退院件数	月件数	22	25	35	27.3
平均在院日数		223.3	164.0	135.2	174.2
(うち、救急病棟平均在院日数)		97.0	78.3	52.3	75.9



記載内容につきまして、ご意見・ご質問・ご感想等ございましたら、下記までご連絡ください。

公徳会 広報誌 こうとく No.32

平成27年4月16日発行

製作 社会医療法人 公徳会
編集 公徳会広報委員会

〒999-2221 山形県南陽市門塚948-1
TEL.0238-40-3170 / FAX.0238-43-2076
✉ sato-hp@koutoku.or.jp ⌂ http://www.koutoku.or.jp